

## 茗溪会新潟県支部

## 会報

第73号

## オリンピック雑感

上村栄市 (S1教大体)

私は昭和四十七年四月に東京教育大学体育学部に入學しました。一、二年の時は、一般教養の講義を茗荷谷のキャンパスで受けていましたが、入學して間もなくのころ、校舎の裏手にある占春園で加納治五郎像を見つけ「何故」と思った記憶が今でも鮮明に残っています。加納治五郎と言えば、講道館柔道の創始者として有名でしたが、私はそれまで恥ずかしながら、長く東京高等師範学校の校長を務めた教育者であったことやアジア初のIIOC委員となつて我が国を初め世界のオリンピック運動の推進者として活躍したことが、そして、幻となつてしまいました。昭和十五年の東京オリンピック招致の立役者であったことを知りませんでした。更に、東京高等師範学校に体育科を設置して学校教育における体育の位置づけを確立するとともに、課外活動として部活動を推奨し、これが東京高等師範学校出身の教育者をおして全国に広ま

り、日本独自の学校を中心としたスポーツの取り組みの礎となつたことも後で知りました。体育の教師をめざして進学した身にとつては、加納治五郎先生の業績を知つたことは、教育大で学ぶ使命感を喚起するものでした。

さて、私は、スポーツ観戦が大好きですが、中でもオリンピックは特別です。日本選手を応援するのは元よりですが、すばらしい活躍をする選手は、国の枠を越えて応援したくなります。選手達のひたむきな眼差し、諦めない姿、歓喜の表情などに大いに心を揺さぶられます。加えて、スポーツをする人間の素晴らしさを目の当たりにできることも大きな魅力です。一昨年のロンドンオリンピックでは、日本選手団は過去最多の三十八個のメダルを獲得しましたが、東日本大震災以来、明るい話題が少なかった我が国にとって、日本選手の活躍は、この上のない励ましになったと思います。また、メ

ダリスト達がインタビューで口々に述べていた、周囲で支えてくれた人々や応援してくれた人々への感謝の言葉も印象的でした。スポーツに限らず望む結果を手に入れた人は、周りの人への感謝の言葉を口にすることが多いようです。選手達は皆、ギリギリまで切磋琢磨しているわけですが、それに加えて周りへの感謝を忘れない心が頂点まで導いたのであろうと感銘を受けました。

平成三十二年のオリンピック・パラリンピック東京開催が決まり、本当に嬉しく思っています。招致委員会が作成した開催計画では、東日本大震災からの復興に触れ、オリンピックの開催は「支援を寄せてくれた全世界への大きな感謝を示す機会となり、またスポーツの持つ大きな力が、困難に直面した人々を如何に励まし勇気づけるかを世界に示すことになら」として「スポーツの力 (The Power of Sport)」を大会コンセプトに掲げました。昨年の九月八日に行なわれたIIOC総会での最終プレゼンテーションでは、走り幅跳びのパラリンピック選手で、宮城県気仙沼市出身の佐藤真海さんのスピーチが感動的でした。佐藤さんは、「私がここにいるのはスポーツによって救われたからです。」「スポーツは夢と希望を与えてくれる。人々を結びつけてくれる」とスポーツの力について話しました。

佐藤さんは、大学在学中に骨肉腫で右足を失つてしまいました。一時は絶望の淵に沈みましたが、陸上競技と出会い、目標を決め、それを越えることに喜びを見出し、自信を取り戻してロンドンパラリンピックへの出場を果たしました。平成

二十三年三月十一日、津波が佐藤さんの故郷を襲いました。佐藤さんは、他のアスリート達と一緒に、スポーツ活動を通して、被災された人々の支援に尽力しました。スポーツには見る者を前向きにさせる不思議な力があります。ひたむきにプレーする選手の姿は、無条件に感動を呼び起こします。苦境に置かれていて人にとつては尚更で、スポーツから困難に向き合う元気をもらい、それを乗り越えるための勇気を奮い立たせます。

佐藤さんは、自身の活動を通してスポーツの真の力を目の当たりにしたそうです。また、今冬のソチオリンピックには、私の住む十日町からも三人の選手が日本代表になりました。三人とも高校まで十日町で過ごした、まさに地元の選手でしたので、大会期間中、町中が大いに盛り上がりましたが、私もその盛り上がりの中に入り、スポーツの力、オリンピックの力を改めて認識したところです。

一月二十四日ようやく東京オリンピック・パラリンピック組織委員会が立ち上がりました。規模は全く違いますが、私も「ときめき新潟国体」の準備・運営に携わりましたので、組織委員会の活動にシンパシーを感じ、注目しています。

オリンピックが開催されるのは六年后、その時日本は東日本大震災からの復興も進み、原発事故の問題も解決に向かい、日本文化を前面に出した「おもてなし」で世界中の人々と親睦を深めている。そんなことを思い描きながら、平成三十二年を楽しみにしています。

研修部だより

環境変化の著しい平成二十五年度でし... フィリピンを襲った猛烈な台風。日本各地で上昇したPM2.5の濃度。日本海側四県でのダイオウイカの発見。そして、教育界でも新しい動きがありました。まず、「いじめ防止対策推進法」が施行されました。また、「学校教育法施行規則の一部改訂」があり、設置者の判断により土曜授業が行いやすくなりました。さらに、当県では二十七年以降の高校入試が改善されることになり、その準備もありました。そのような中、研修部では例年どおり二回の研修会を開催しました。参加された多くの会員の皆様に改めて感謝いたします。

支部研修会

期日 平成二十五年十月十二日(土) 場所 ホテルサンルート新潟

【午前の部】管理職を目指す先生方を中心に、研修を深めました。参加者十六名 開会の挨拶 永井成一 支部長

研修I(指導関係) 講師 齋藤 均 研修担当理事 (県立有恒高等学校校長)

研修II(管理関係) 講師 猪又 斉 研修担当理事 (県立新潟東高等学校校長)

研修III(論文指導) 講師 池嶋聖也 広報担当理事 (県立長岡明德高等学校校長)

開会の挨拶 小野寺篤 副支部長 (県立豊栄高等学校校長)

【午後の部】若い意欲あふれる方に加え、研修を深めました。参加者十九名 開会の挨拶 永井成一 支部長

体験発表(学校に勤務して思うこと) 講師 永橋知明(新潟高等学校教諭) 新潟高校で導入した電子黒板の長所、短所についてと、生徒の受け止め方や教師の受け止め方などについて話されました。

講師 本田 崇(長岡高等学校教諭) 長岡高校理科での取組と二度目のSSHの概要について話されました。特に理科海外研修とメディアコースの説明では、生徒がどのように成長していくかについて詳しく話されました。

先輩からのお話 講師 高山俊彦 広報担当理事 佐渡が舞台となり、実話をもとにした映画「飛べ!ダコタ」を鑑賞して感動した。その中で見られた人間

愛はすばらしかったとお話しされました。また、ご自身の経験から「生徒という目盛り」と「危機管理意識」を常に持っていることが大切である。情報交換及び教育懇談会

乾杯、若手を中心とした近況報告、それぞれの情報交換などで盛会となり、最後は「桐の葉」斉唱で互いの絆を強めました。

若手教員懇談会

教員採用試験受験希望者・若手教員懇談会

日時 平成二十六年二月八日(土) 場所 ホテルサンルート新潟 参加者 十八名

開会の挨拶 永井成一 支部長 茗溪会の会員が減少していく中で、今回は一名だが採用試験受験者を迎え嬉しく思う。是非、会員の皆さんで育ててほしい。

先日の高校校長OB会で同期と懇談したが、お互いに周りがどのような仕事をしてたのかを知らないことが多いと分かった。意外と視野が狭い。これでは良い教育ができないのではないかと。自分の担当教科はもちろん、学校全体、周りの学校、県全体、国全体を注視し、高校教育はどうなっているのかを考える必要がある。そのために研修や情報交換は必要であるとお話がありました。

参加者自己紹介 遠藤 郁さん 筑波大学大学院生命環境科学研究所 (高校理科・生物受験予定)

研修I(全体会) 講師 猪又 斉 研修担当理事 講師の用意された資料に沿って、教員採用選考検査の仕組み、新潟県の採用ま

での流れ・選考検査概況、新潟県の検査実施要項まで詳細な説明がありました。さらに、選考検査内容と対策について、一般教養・教職教養は過去問題の収集・学習から対応することが必要であると話されました。また、論文の対策については、テーマの把握、論文の構成、表現力、論旨の妥当性・具体性に留意しながら内容を検討することが必要であるため、県教育委員会のHPから県の教育課題等を探り、事前に幾つかのテーマで論文を作成する準備が必要であると話されました。

研修II(教科別研修会) 講師 宮本俊彦 研修担当幹事 はじめに、佐藤 俊(総務担当幹事)、鹿俣 謙(広報担当幹事)、廣井徳文(広報担当幹事)の若手教員三名から、教員採用試験を受験する際の留意点、体験談等のお話をいただきました。

その後、受験予定者の遠藤さんが、講師の宮本先生と高口和法研修担当理事から、受験予定の高校理科・生物についてマンツーマンの研修を受け、充実した時間を過ごしました。来年度の受験に向け、遠藤さんの健闘を心から願っております。教育懇談会

挨拶で小野寺篤副支部長から、開会挨拶の時には茗溪会先輩諸氏のように会場の人を微笑ませ、心を和ませる挨拶をずっと心がけてきたが、実際は思うように話せず大変難しい、学校運営や教科指導の研修だけでなく、それ以外のことも茗溪会の先輩から教わり、大変勉強になったとお話がありました。

その後、先輩、中堅、若手の垣根を越え、お互いの近況を語り合う等、和やかな雰囲気の中で懇談会が進み、最後は恒例の「桐の葉」で閉会となりました。

### 三条市に赴任して

JTB関東法人営業三条支店 藤井 淳 (H4筑体)

昨年の二月より三条市で勤務しております。私は東京生まれであり、新潟の冬はさぞかし雪深く寒いところなのではとイメージしておりましたが、着任してみると雪よりもいつも曇っていて太陽が出てこないの方が印象的でした。でも夏は暑いですね。

仕事の話ですが入社以来ずっと学校営業、主に修学旅行の営業に携わっております。現在は課長という立場で直接自分自身が直接セールスをする場面はあまりありませんが、部下との同行セールスで学校に伺うときは何となくわくわくするもので、職員室や教官室に入るとその雰囲気は勝手ながら自分の居場所のような感覚を覚えます。

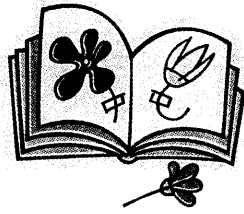
これまで幾度となく修学旅行の添乗をさせて頂きました。私がいつも思うのは生徒さんにとってその学校での修学旅行は一生に一回であり、そんな貴重な瞬間に立ち会えるのだから期待に必ず応えなければ、ということ。でもそれは単なるプレッシャーではなく、その場面に立ち会えるという喜びや誇りの方を強く感じます。だからこそ修学旅行が無事に終了し、生徒さんや先生方の満足そうな表情が見られた時が最高の喜びです。

新潟には単身赴任で来ております。マイホームは千葉県柏市で妻と中二と小三の娘がおります。一人暮らしは大学以来ですが、今は久しぶりの一人暮らしを美

味しい食事とお酒で満喫している、といったところでしょうか。

今は新潟の空気と雰囲気にとっぷりとつかって、いい仕事ができるよう日々邁進していきたいと思っております。学校でお会いしましたら大学の話などで盛り上げられればと思います。

取り留めもない話で恐縮ですが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



### 水球のまち柏崎 ブルボンウォーターポロクラブ柏崎

株式会社ブルボン 永田 敏 (H15筑体)

私が初めて柏崎市を訪れたのは大学四年生の時でした。二〇〇九年の新潟国体に向けて、新潟の子ども達に水球の指導をして欲しいとの依頼を受け、当時の四年生部員三人で指導に伺いました。この時は、まさかその数年後に自分が柏崎に住むことになるとは思っていませんでした。

現在私が所属している「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎(ブルボンKZ)」は、当時新潟産業大学学長であった廣川先生と、イタリアなどのプロリーグで活躍していた同窓の青柳の二人が中心となって地元企業にスポンサーを募り、市内に本社を置く株式会社ブルボンによる協賛を受けて、二〇一〇年に設立された社会人チームです。チームには日本代表選手や国内トップレベルの選手が在籍しており、現在五名の選手がイタリアのプロリーグで活動しています。

私たちブルボンKZの社会人選手は、プロの選手ではありません。選手は、各自が所属する企業で一日仕事をし、勤務時間終了後に練習を行っています。練習時間は、全員が仕事を終えて集まることのできる二〇時から行い、シーズン中は各所属企業のご協力の下、選手の出動時間を遅らせて頂き早朝練習も行っています。このような各所属企業のご協力や市民の方々からの応援があり、二〇一二年の日本選手権ではチーム設立三年目にして初の日本一に輝くことができました。柏

崎で行われた祝勝会には三〇〇名以上の方が参加してくださり、日本一のタイトルを獲得したこと、そしてそれがもたらす影響の大きさを実感致しました。

二〇一一年からは毎年夏に「柏崎市小学生水球交流会」を行っており、三回目を迎えた昨年は市内十一の小学校・約一七〇名の小学生が参加してくれました。また、希望する小学校にはブルボンKZの選手による出前水泳授業も行っています。その他各種イベントへの出演など、市民の方々に応援して頂けるよう地域貢献活動にも積極的に取り組んでおります。

昨年の日本選手権では、地元柏崎市での大会連覇を目指して臨みましたが、準決勝で敗れ決勝に進むことができませんでした。しかし、三位決定戦には一〇〇名以上の方が会場で応援して下さい、三位という結果で大会を終えることができました。連覇を逃したにも関わらず、これだけの方が会場で応援して下さい、ブルボンKZが地域に根ざしたチームになってきたからこそ、そして、五〇年以上もの水球の歴史のある柏崎だからこそできた事だと感じました。

二〇一五年三月からは、高校生の水球全国大会が柏崎市で開催されます。今年日本選手権では必ず優勝し、日本一のタイトルを「水球の町柏崎」に持ち帰り、町の活性化に貢献できるよう練習に励んでいきたいと思っております。今後とも皆様のご支援・ご声援の程、何卒よろしくお願ひ致します。

シリーズ  
職場の仲間たち

―巻 高校―

夏見 康彦 (H2情報)

現任校に転勤して一年目、通算で五校目の職場であるが、今まで私が経験したことがないことばかりである。

まずは、完成してまだ二年余りしか経っていない真新しい新校舎。特に進学型単位制をとる本校の少人数での習熟度別学習を可能にしたセミナールームの完備や講義室をはじめとした教室・設備の充実。

夏の高校野球県大会準決勝では、野球部が惜しくも日本文理高校に敗れはしたものの、全校生徒と共にエコスタジアムに行き、熱く応援したこと。

初めてのソフトテニス部の顧問。そして選手の活躍によって、夏の北信越大会に連れて行ってもらったこと。

教員になっていくら年をとっても、常に新しいことや生徒から教わることがあり、刺激的な日々を過ごしている。

―正徳館高校―

松坂 章 (H1筑体)

「しょうとくかん」高校に勤務して三年が過ぎようとしています。教員生活も早いもので二十五年目となりました。初任校が寺泊高校でしたので、二十年たっ

て振り出しに戻ったような懐かしさと共に、初心に返ってしっかり頑張らなければという思いで一杯です。

さて、現任校は与板高校と寺泊高校が統合してできた新しい学校で、今年開校十周年を迎えます。開校時は一学年四学級規模でしたが、現在は二学級となっています。さらに三年後には一学級となる事が決まっております。毎年毎年新たな課題と向き合わなければいけません。生徒は

他校と比べれば学力的に低いですが、大きな声で挨拶・返事ができる、清潔感のある頭髮・服装、清掃に一所懸命取り組むなど、県内一だと誇れる素晴らしい学校です。今後も年齢に相応しい「味」のある教員を目指し努力したいと思います。

―三条商業高校―

浅川 拓 (H19筑体)

三条商業高校に赴任して三年が過ぎようとしている。部活動では、専門であるバスケットボール部の女子を指導している。今年度は目標であった県総体ベスト4を達成できた。私立校の台頭や部員数問題等をクリアし、地元の子たちで戦い抜いた点は評価してやりたいと思う。

しかし、協会や様々な所で学生の「バスケット離れ」が深刻視されている。我が部も中途退部者を出さない指導を実践しているが、現在部員九名と寂しい状況。

先述の問題点の理由は多々考えられるが、指導者がバランスを大切にし、「強化」だけでなく「普及」に路線変更とまでは行かなくとも、修正・拡大を考えていかなければならぬと思えてきた。

東京五輪の中心を担う世代を育てるにあたり、地元の小・中学校、地域と連携のとれた高校教員を目指し、スポーツに携われる人材を輩出したいと思う。

編集後記

会報第73号をお届けします。今回も編集作業が遅れ、この時期の発行となったことをお詫びします。次号はなるべく速やかに発行できますよう努力中です。

さて、茗溪会は本来、高校の教職に就かれた方だけではなく、広く東京高等師範学校や東京教育大学、筑波大学の出身者を対象にした会員組織です。会報につきましても、この趣旨に立ち返り、高校現場以外の方々の声も取り上げたいと思っております。次号以降少しずつではありますが高校現場以外の方の原稿を増やしていきたいと思っておりますので、ご期待ください。

それでは会員の皆様、くれぐれも体には気をつけてお過ごしください。

会員の皆様へ (お願い)

平成27年2月14日(土)に、ホテルサンルート新潟にて、教員志望者研修会を開催する予定です。

個人情報保護の関係から、筑波大学からは当該学年(主に3年生)の連絡先が把握できず、開催案内を送れない状況にあります。

つきましては、皆様の知りうる範囲で、平成28年度教員採用検査を受検予定の学生、卒業生がおりましたら、事務局までご連絡ください。

事務局 長田 裕